

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075500704
法人名	NPO法人ヒューマンネット大地の翼
事業所名	グループホーム うぐいす
所在地	福岡県宮若市本城1104番地 (電話・FAX) 0949-33-4710

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成20年11月29日	評価確定日	平成20年12月16日

【情報提供項目より】(平成 20年11月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	1	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 8 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 5.3 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費10,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (八百一吋金百 よ)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(11月18日現在)

登録人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2	要介護2	2		
要介護3	2	要介護4	2		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 86 歳	最低 81 歳	最高	92 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人相生会宮田病院 塩川歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームうぐいすは、「家族が安心して暮らせる場所を作ってほしい」との願いからNPO法人ヒューマンネット大地の翼が開設している一ユニットのホームである。毎月の家族会で日々のホームの状況を報告し、同日に開催された前回の運営推進会議で、地域代表から無断離園者の探索に協力したいとの申し出があつている。開設3年目であるが開所以来入居者の退去や職員の離職がなく、入居者や家族の意向を十分に把握した管理者・職員と入居者の肩の張らない関係は、職員に新たな気付きや入居者の健康な能力の発揮を促している。特定疾患が増悪している入居者には、主治医や訪問看護・訪問リハビリテーション等と連携しながら、入居者の日々の暮らしを支援している。重度化やターミナル期に向けた方針に家族の同意を得たり、ターミナルステージ毎のマニュアルに沿った対応表を早急に主治医や訪問看護師に連絡できるように、電話の傍に整備している。先ごろ地域の10同業者と発足した「GHみやわか」は11事業者の参加で、定款等の整備も検討され、さらなる地域密着型サービスの広がりや向上が期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の自己評価の改善計画シートを作成し、改善点内容を話し合っている。外部評価結果に沿って、運営規程・重要事項説明書等に地域密着型サービスの方針の明記や成年後見制度活用話し合いの記録整備、虐待防止マニュアルの作成、飲料水等の備蓄台帳の整備等を実践している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が外部評価を理解し、自己評価に取り組んでいる。前回の自己評価の改善に取り組む、改善計画シートを作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議規程を整備し、参加者の守秘義務についても明記している。2月ごとに全家族、行政担当者、老人会会長、区長、消防署、警察署等に呼びかけ、運営推進会議を開催している。ホームの行事や外部評価等について報告し、議事録を整備している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	毎月担当職員が記載した心身の状況等を家族に送付したり、行事等の写真を掲載したホーム便りを四季折々に送付している。常勤職員の看護師が協力医療機関や訪問看護等との連携で健康状態を把握し記録している。定期医療機関受診は家族の同行をお願いし、職員が同行した場合は随時家族に連絡し記録している。預かり金は金銭出納帳を整備し、家族に了承を得ている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、缶拾い等に参加している。地域の子ども会や自治会の餅つき大会会場にホーム玄関前や法人の会議室を開放し、入居者も一緒に楽しんでいる。今年初めて近隣の小学校から運動会の招待があり、久しぶりの運動会をおおいに楽しんでいる。福祉祭りでは、地域の11の同業者共催でテナントを出店している。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	日ごろから地域と交流し、地域密着型サービスの方針を運営規程・重要事項説明書に明記している。事務コーナー入口の壁に地域密着サービスに沿った独自のホーム理念を大きく掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が朝礼で運営理念を唱和している。職員は地域密着型サービスの特色を理解し、生き生きとした生活を実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム開設当初から自治会に加入している。自治会活動の缶拾い等に参加したり、自治会主催の餅つき、焼き肉大会、盆踊りにはホーム前の場所を提供し、入居者も共に楽しんでいる。今年度は敬老会への参加、地元小学校より運動会への招待があるなど地域の一員として交流を深めている。子供と手をつないだ入居者の笑顔を見て、今後は地域の子供が気軽に立ち寄ってくれるホームにしたいと話している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が外部評価を理解し、自己評価に取り組んでいる。前回の自己評価の改善に取り組み、改善計画シートを作成している。前回の外部評価結果を活かし、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議規程を整備し、参加者の守秘義務についても明記している。2月ごとに全家族、行政担当者、老人会会長、区長、消防署、警察署等に呼びかけ、運営推進会議を開催している。ホームの行事や外部評価等について報告し、徘徊ネットワークの協力について話し合いをしている。議事録を整備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の11同業者で「GHみやわか」を発足し、福祉祭りの企画・参加で行政担当者と話し合う機会を設けている。ホームの事務所を「GHみやわか」の会議の場に提供している。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	成年後見制度等のパンフレット等を整備している。成年後見制度の活用について、入居者や地域社会福祉協議会担当者と話し合いをしているが、制度の活用にまで至っていない。経緯は担当者会議録に整備している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月担当職員が記載した心身の状況等を家族に送付したり、行事等の写真を掲載したホーム便りを四季折々に送付している。職員の看護師が協力医療機関や訪問看護等との連携で健康状態を把握している。定期医療機関受診は家族の同行をお願いし、職員が同行した場合は随時家族に連絡し記録している。預かり金は金銭出納帳を整備し、家族に了承を得ている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム及び関係機関の苦情担当窓口を明記した重要事項説明書を玄関に掲示したり、ご意見箱を設置している。家族の希望で開催される「家族会」はほぼ全員参加で、家族同士の交流の場となっている。今まで特に不満や要望は聞かれないが、職員は意見に耳を傾け、必要時には職員のミーティングで話し合い意見を反映させるようにしている。家族から感謝の便りや車両購入の援助等は職員の励みになっている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は認知症の特性を十分に理解し、職員を担当制にすることで、入居者と馴染みの関係づくりを行っている。開設以来離職者がなく、管理者及び全職員が意見交換ができる環境を作っているが、今後は担当の交代も検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員採用には性別・年齢の制限はない。入居者の重度化に伴い勤務時間の調節が可能なパート職員を採用し、職員の研修参加や有給休暇取得に配慮している。就業規則、雇用契約書が整備され、定期健康診断も実施している。職員の休息の場はないが、慰労会等でストレス解消をしている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	虐待防止マニュアルを整備し、日ごろのミーティングで法人代表や管理者が人権について話している。入居者の日常生活の中で発せられる「言葉」の重みを大切にされた日常の支援があり、職員と入居者の信頼関係につながっている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	福岡県グループホーム協議会に加入し、Fブロックの研修会に参加している。また、地域の11同業者の「GHみやわか」で研鑽の機会を設けているが、年間研修計画は作成していない。参加した研修はミーティング等で伝達研修等を実施している。スーパーバイザーはいないが、理事長が職員の相談に応じている。	○	グループホーム協議会や「GHみやわか」で企画する研修会等を盛り込んだ年間研修計画の作成を期待します。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会Fブロックの研修会に加入したり、地域の11の同業者で「GHみやわか」を発足し、外部から講師招いたり事例検討等の勉強会を開催している。今後は人事交流も予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービスの利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	開設以来退去者はいないが、開設当初は入居希望者の入院先に面会に行ったり、ホームを見学してもらうことで本人や家族の意向を確認し、入居に至っている。開設当初から家族の会を発足し、家族と相談しながら入居者の生活を支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員が率直に意見や文句を言い合ながら、日々の生活を楽しんでいる。入居者から料理の下ごしらえやよもやま話を聞くのが楽しいと話す若い職員もいる。入院先に担当職員と撮った写真を持参するなど、入居者と職員が寄り添って生活していることが伺える。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	東京センター方式による丁寧なアセスメントで、入居者や家族の希望や願いを介護計画書第1表に記載し、収集された情報に基づいて課題と援助内容が第2表に記載されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族の意向を把握した担当職員が作成した介護計画を毎月の会議で話し合い、個別性・具体性のある介護計画を作成している。入居者や家族の意向等は、担当者会議録に記載している。特定疾患の入居者の介護計画は、訪問看護計画に連動して、訪問看護や訪問リハビリテーションが記載されている。毎日の支援が介護計画に沿って実施できるよう職員間の情報を共有するため、介護計画書と介護記録セットにするなど工夫している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護支援専門員が毎月介護計画の進捗状況を記載したモニタリング表を整備している。毎月介護計画を入居者や家族に説明し、家族の署名がある。3ヶ月毎、また状況に応じて見直した介護計画に、家族の署名がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況に応じて医療機関の受診を支援し、重度化等を防止している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関受診を支援したり、協力医療機関受診に家族と同行することもある。看護師の職員が医療機関と連携し、受診情報を職員に周知したり、家族にも随時報告し記録を整備している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化やターミナル期に向けた方針を整備し、ターミナルステージ毎のマニュアルを作成している。家族会でも、ホームでの看取りについて説明し、全入居者や家族に方針を説明し同意を得ている。現在、重度の入居者もいるが、個別の緊急対応マニュアルを作成し、早急に主治医や訪問看護師に連絡できるように、電話の傍に整備している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いや守秘義務を運営規程や重要事項説明書に記載し、入居者や家族に説明し同意を得ている。運営規程や重要事項説明書は玄関に掲示している。個人ファイルは事務コーナーの机の引き出しに保管している。職員は、入居者の人権やプライバシーを配慮した声かけや対応をしている。	○	個人情報の取り扱い内容に具体的な個人情報の利用目的を明記し、入居者や家族に説明するとともに、ホーム内に掲示をお願いしたい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	東京センター方式の活用で、入居者の生活歴や職歴等を把握し、各入居者のペースに応じて昼食や入浴、外出を支援している。「入居者から支援内容に応じて、職員の指名がある。」と管理者が笑いながら話している。重度の入居者も午後は移動ベッドで共有スペースで過ごしたり、車いすでの外気浴を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ、片付け等で入居者の力量に応じた関りを支援している。訪問調査当日は入居者が大根をおろしたり、つぎ分けをしたりしていた。職員は入居者と献立等の話をしながら入居者と同じテーブルで伴食している。梅酒をたしなんだ入居者の歌に皆が手拍子をとるなど、笑いや拍手のある昼食であった。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜以外の午後、入浴の順番を変え隔日に入浴を支援している。入浴拒否者には、清拭等で保清したりこえ掛けを工夫して入浴を促している。入浴中、「おなか痛い」と訴える入居者に職員がすぐに対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	地域のボランティアに昔話の朗読、敬老会で踊りを披露していただいている。貼り絵等の作品を皆で作っている。馴染みの化粧品店の納品の際に顔のマッサージをお願いしている入居者もいる。ホームの着物フェスタで久しぶりに浴衣を着て、「今度はピンクの柄の浴衣を着たい」との感想まであった。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事計画に沿って、映画、航空ショー等に出かけているが、今年は福岡県庁の見学にも出掛けている。入居者の希望に沿って随時近隣のスーパーへの買い物に出かけたり、郵便局や馴染みの美容院等への外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	18時から翌朝7時までは玄関等は施錠しているが、外出支援等で職員が少ない場合は施錠をすることもある。外出傾向のある入居者は生活リズムや動向を把握することで対応している。先日運営推進会議で徘徊ネットワークについて話し合い、自治会等に探索協力のために全入居者の顔写真をお願いしてはどうかとの意見があり、検討している。1人で外出できる入居者はネームプレートを持参している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の災害時避難マップを共用空間に掲示し、非常災害マニュアルを整備している。避難訓練時に地域の方々や家族に協力をお願いしているが、今回は参加はなかった。備蓄台帳を整備し、飲料水・食品、おむつ等の衛生材料を備蓄している。消火器を整備している。	○	今後も運営推進会議や家族会等を通じて、避難訓練に地域の方々や家族に協力依頼をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日のおおよそ1500kcalで献立をしている。各入居者の食事毎の摂取量やおおまかな水分摂取を把握している。うがい用に飲用して良いお茶を500mlのペットボトルに用意している。主治医の指示で、カリウムの摂取制限を支援したり、嚥下・咀嚼状況に応じてトロミをつけたり、きざみ等で食形を工夫している。毎月2回の体重測定で増減を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先からベランダの軒に干し柿が見え、季節を感じさせる。段差がない玄関には、座って靴をはけるように椅子が置かれている。玄関傍に事務のコーナーがあり、カウンターの上には季節の花が活けられ人形が置かれている。ホームの真ん中の共用空間は吹き抜けで明るく、食堂と居間を兼用している。傍のソファでは居室では寂しいと横になっている入居者もおり、居心地のよい共用空間である。2ヶ所にトイレが設置されているが、換気や防臭に配慮している。居間につづくベランダは日光浴をしたり、昼食を食べたり有効に活用されている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の希望により畳を敷いている居室もある。ホームが医療機関から譲り受けたベットを使用し、箆笥等の馴染みの家具や日用品が持ち込まれ、過ごし易い居室づくりをしている。		